

2017年度(平成30年3月期) 第3四半期決算説明資料

IHI

2018年2月6日

株式会社 IHI



目次

1. 2017年度第3四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	8
特別損益.....	9
連結貸借対照表.....	10
補足資料.....	11

2. 2017年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	14
報告セグメント別内訳.....	15

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	19
社会基盤・海洋.....	21
産業システム・汎用機械.....	23
航空・宇宙・防衛.....	25

<参考資料>.....	27
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2017年度第3四半期 連結決算

1. 2017年度第3四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2017年度3Q 売上平均レート(米ドル) 111.68円

(億円)

	'16年度3Q	'17年度3Q	増 減
受 注 高	9,287	9,775	488
売 上 高	10,382	11,313	930
営 業 利 益	194	515	320
経 常 利 益	87	296	209
税金等調整前 四半期純利益	▲ 9	282	291
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 91	98	190

2016年度と同様に、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、第3四半期連結累計期間においては、該当する海外連結子会社の会計期間が12か月となっています。この影響により、売上高で579億円(前期252億円)、営業利益で14億円(前期27億円)がそれぞれ増加しています。

1. 2017年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'16年度3Q	'17年度3Q	増減	'16年度末	'17年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,698	2,651	▲ 46	7,523	6,714	▲ 809
社会基盤・海洋	911	1,045	134	1,961	1,949	▲ 12
産業システム・汎用機械	3,186	3,526	339	1,484	1,642	158
航空・宇宙・防衛	2,341	2,358	17	5,110	4,351	▲ 759
報告セグメント計	9,137	9,582	444	16,080	14,657	▲ 1,423
その他	500	554	54	172	243	71
調整額	▲ 350	▲ 361	▲ 10	-	-	-
合計	9,287	9,775	488	16,253	14,901	▲ 1,351

海外受注高・受注残高	4,038	5,218	1,180	5,912	4,983	▲ 928
海外受注高・受注残高比率	43%	53%	10%	36%	33%	▲ 3%

1. 2017年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'16年度3Q	'17年度3Q	増減	'16年度3Q	'17年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,973	3,518	544	▲ 158	▲ 107	51
社会基盤・海洋	1,075	1,046	▲ 28	▲ 167	84	251
産業システム・汎用機械	2,985	3,314	329	112	109	▲ 3
航空・宇宙・防衛	3,226	3,265	39	416	467	51
報告セグメント計	10,261	11,146	884	203	554	350
その他	487	463	▲ 24	10	8	▲ 1
調整額	▲ 367	▲ 296	70	▲ 18	▲ 47	▲ 29
合計	10,382	11,313	930	194	515	320

一部の海外連結子会社の決算日を変更したことに伴うセグメント別の影響については、決算短信のセグメント情報を参照ください。

1. 2017年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前年同期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	25	18	5	10	▲ 7	51
社会基盤・海洋	2	247	5	▲ 3		251
産業システム・汎用機械	28	▲ 7		▲ 20	▲ 4	▲ 3
航空・宇宙・防衛	9	37	27	▲ 22		51
報告セグメント計	64	295	37	▲ 35	▲ 11	350
その他	▲ 2	2		1	▲ 2	▲ 1
調整額		▲ 24		▲ 5		▲ 29
合計	62	273	37	▲ 39	▲ 13	320

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2017年度第3四半期 連結決算 営業外損益

(億円)

	'16年度3Q	'17年度3Q	増 減	備 考
金融収支	▲ 1	▲ 3	▲ 1	
持分法による投資損益	2	▲ 110	▲ 113	2017年度3Q: ジャパン マリンユナイテッド(株) ▲109※
為替差損益	▲ 39	▲ 1	38	
その他	▲ 69	▲ 103	▲ 34	2017年度3Q: 民間航空エンジン契約調整負担金 ▲64 契約納期遅延に係る費用 ▲45
営業外損益	▲ 107	▲ 219	▲ 111	

(※) 当社の関連会社であるジャパン マリンユナイテッド(株)が建造中のLNG船において、防熱工事の工程遅延などを受けて、建造工程やコストを見直したことにより、当該案件の工事原価見通しが前四半期末に比べて増加し、採算が悪化しました。

期末日レートの変動(米ドル) '16年度3Q +3.81円(期首112.68円→3Q末116.49円)
'17年度3Q +0.81円(期首112.19円→3Q末113.00円)

1. 2017年度第3四半期 連結決算 特別損益

(億円)

	'16年度3Q	'17年度3Q	増減	備考
事業譲渡益	—	15	15	船用機械事業, 防災事業
関係会社損失引当金取崩益	16	—	▲ 16	
負ののれん発生益	10	—	▲ 10	シールド事業再編関連
関係会社株式譲渡に係る利益	7	—	▲ 7	建機事業再編関連
特別利益	35	15	▲ 19	
商業運転中のボイラ設備に係る 和解関連費用	—	▲ 29	▲ 29	
債務保証損失引当金繰入額	▲ 98	—	98	㈱UNIGENへの2016年度3Q末保証債務残高 から回収可能な見積額を控除して引当
工事契約変更に係る補償金	▲ 22	—	22	海洋構造物事業案件での契約変更に伴う補償
投資有価証券評価損	▲ 11	—	11	
特別損失	▲ 131	▲ 29	102	
特別損益	▲ 96	▲ 13	82	

1. 2017年度第3四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'16年度末	'17年度3Q末	増減
資産合計	16,928	16,771	▲ 156
(うち 売上債権)	(4,030)	(3,606)	(▲ 424)
(うち 棚卸資産)	(4,172)	(4,853)	(681)
負債合計	13,552	13,267	▲ 284
(うち 仕入債務)	(2,859)	(2,974)	(115)
(うち 前受金)	(2,089)	(1,973)	(▲ 115)
(うち 有利子負債残高)	(3,719)	(3,627)	(▲ 91)
純資産合計	3,376	3,504	127
株主資本	3,099	3,148	48
その他の包括利益累計額	81	130	49
負債・純資産合計	16,928	16,771	▲ 156
D/Eレシオ (※)	1.10倍	1.04倍	▲ 0.06倍
自己資本比率	18.8%	19.6%	0.8%

有利子負債残高には、リース債務残高(2016年度末:203億円, 2017年度3Q末:187億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'16年度3Q	'17年度3Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	144	353	208
投資キャッシュ・フロー	▲ 365	▲ 243	122
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 220	110	330
財務キャッシュ・フロー	346	▲ 186	▲ 533

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'16年度3Q	'17年度3Q
研究開発費	228	242
設備投資額	359	389
減価償却費	342	329

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(3) 海外売上高 (億円)

	'16年度3Q	'17年度3Q
ア ジ ア	1,340	1,180
中 国	627	823
北 米	2,257	2,860
中 南 米	210	184
欧 州	891	1,034
そ の 他	260	256
合 計	5,588	6,339
海外売上高比率	54%	56%

2. 2017年度 連結業績見通し

2. 2017年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円**(前回見通し公表時 **105円**)
 (第4四半期) ユーロ **120円**(前回見通し公表時 **120円**)

(億円)

	前回見通し ('17年度通期) A	今回見通し ('17年度通期) B	前期実績 ('16年度通期)	増 減 B-A
受 注 高	15,000	15,000	13,898	0
売 上 高	15,500	16,000	14,863	500
営 業 利 益	650	710	473	60
経 常 利 益	570	390	220	▲ 180
親会社株主に帰属する 当期純利益	230	110	52	▲ 120

前回見通しは、2017年11月1日公表の業績予想数値です。

今回見通しは、2018年2月1日に公表した数値から変更ありません。

(参考)為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 2億円 ユーロ 0億円

(注)2016年度から順次、海外連結子会社の決算日について12月末から3月末への変更を進めており、

2017年度も一部の海外連結子会社については15カ月間の業績見通しとなっております。

また、2017年度より、当社及び一部の国内連結子会社では、有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法へ移行しております。

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’17年度通期)	今回見通し (’17年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	4,600	4,400	▲ 200
社会基盤・海洋	1,500	1,500	0
産業システム・汎用機械	4,500	4,700	200
航空・宇宙・防衛	4,400	4,400	0
報告セグメント計	15,000	15,000	0
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 700	▲ 700	0
合 計	15,000	15,000	0

前回見通しは、2017年11月1日公表の業績予想数値です。
今回見通しは、2018年2月1日に公表した数値から変更ありません。

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’17年度通期)		今回見通し (’17年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	5,000	50	4,900	▲ 20	▲ 100	▲ 70
社会基盤・海洋	1,600	110	1,600	120	0	10
産業システム・汎用機械	4,400	150	4,500	160	100	10
航空・宇宙・防衛	4,700	460	4,700	500	0	40
報告セグメント計	15,700	770	15,700	760	0	▲ 10
そ の 他	700	20	700	30	0	10
調 整 額	▲ 900	▲ 140	▲ 400	▲ 80	500	60
合 計	15,500	650	16,000	710	500	60

前回見通しは、2017年11月1日公表の業績予想数値です。
今回見通しは、2018年2月1日に公表した数値から変更ありません。

2. 2017年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(前回見通しからの営業利益の増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変 動	合 計
資源・エネルギー・環境	▲ 20	▲ 50			▲ 70
社会基盤・海洋	10				10
産業システム・汎用機械	10				10
航空・宇宙・防衛		20	20		40
報告セグメント計	0	▲ 30	20	0	▲ 10
そ の 他				10	10
調 整 額		60			60
合 計	0	30	20	10	60

3. 報告セグメント別の概況

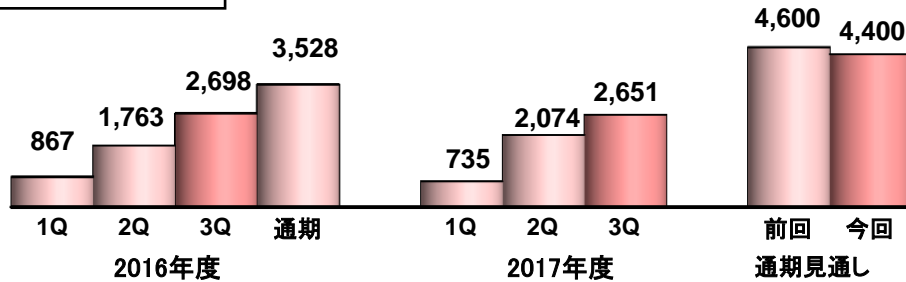
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2017年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, プロセスプラント, 原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

受注高



<対前年同期 増減内訳>

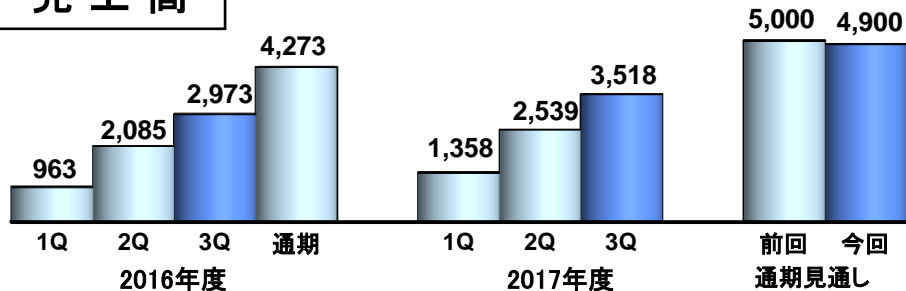
【受注高】

ボイラで増加したものの、プロセスプラントや原子力で減少しました。

【売上高】

報告期間統一の影響のほか、プロセスプラントにおいて大型プロジェクトが進捗したことや、ボイラや原子力、陸船用原動機で増収となりました。

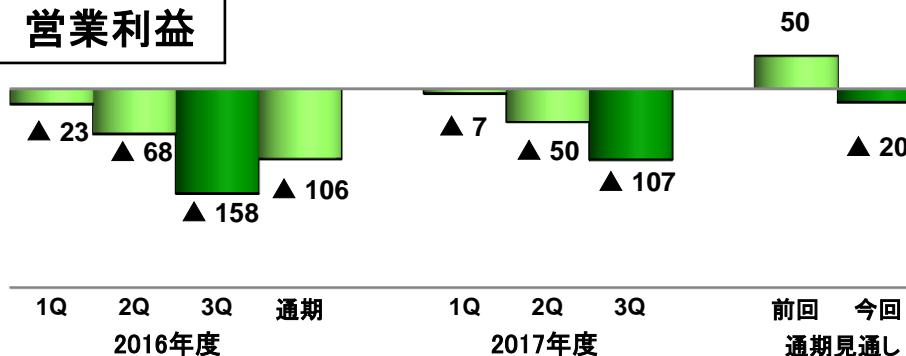
売上高



【営業利益】

プロセスプラントで採算が悪化したものの、ボイラでの採算悪化の解消や上記の増収により、赤字幅が縮小しました。

営業利益



<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高は、プロセスプラントや原動機プラントで減少する見直しです。

売上高・営業利益は、上記の受注減による売上の減少や、プロセスプラントの一部工事の採算悪化などにより、減収・減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高							
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度				'17年度			
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 (見通し)
ボ イ ラ	583	1,300	245	609	861	1,120	254	700	998	1,400
原 動 機 プ ラ ン ト	190	430	58	104	140	189	64	110	167	290
陸 船 用 原 動 機	611	620	133	264	388	583	145	285	409	620
プ ロ セ ス プ ラ ン ト	730	790	215	486	629	943	691	997	1,263	1,350
原 子 力	556	290	22	69	127	301	52	103	169	390

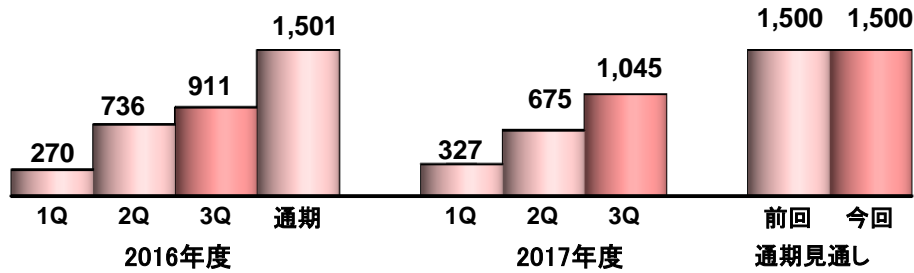
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

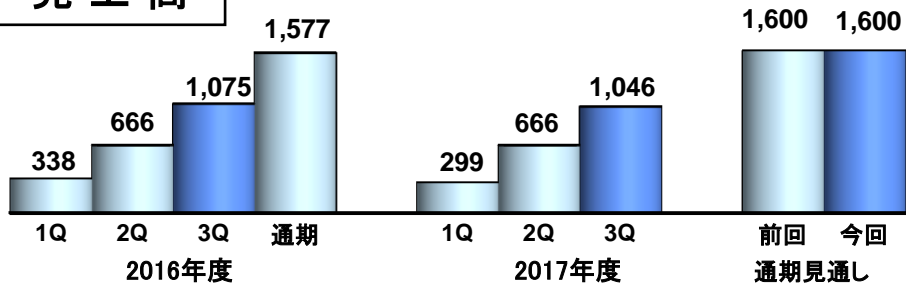
前回: 2017年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールドシステム, 交通システム, コンクリート建材,
都市開発, F-LNG・海洋構造物

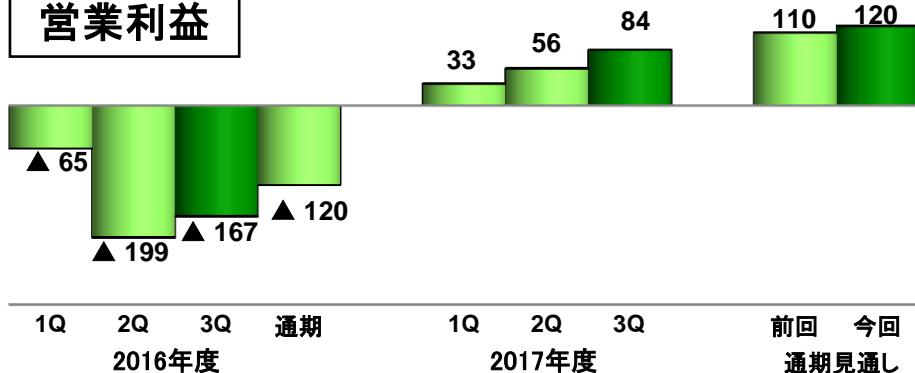
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

シールドシステムで減少したものの、橋梁・水門でムンバイ湾横断道路橋を受注したことにより、増加しました。

【売上高】

シールドシステムで統合の効果や工事進捗に伴う増収があったものの、F-LNG・海洋構造物や交通システムで減収となりました。

【営業利益】

前年同期に計上したF-LNG・海洋構造物の赤字が解消したことなどにより、営業黒字となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高は、橋梁・水門で増加するものの、その他の事業の減少により、全体では変更ありません。

売上高は変更ありません。

営業利益については、シールドシステムなどでの工事の進捗に伴い、増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高							
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度				'17年度			
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 (見通し)
橋 梁 ・ 水 門	710	960	150	306	449	672	128	267	427	700
F-LNG	▲ 17	▲ 10	80	107	146	184	24	91	103	120
都 市 開 発	151	160	34	71	106	142	42	89	125	170

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P33、P34の<参考資料>をご覧ください。

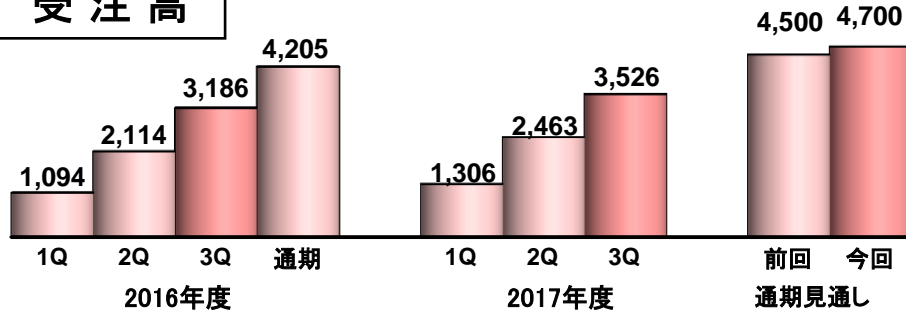
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

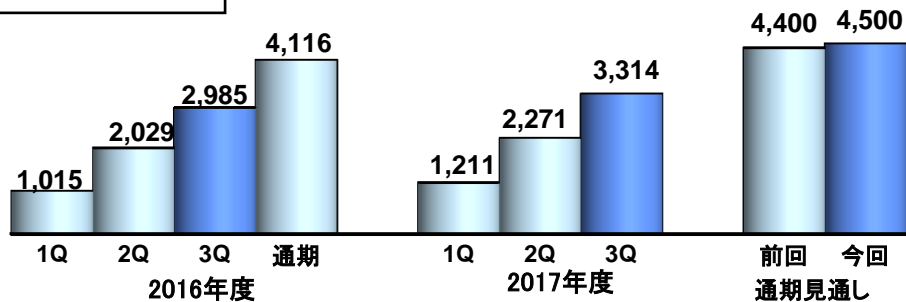
前回: 2017年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 農機・小型原動機

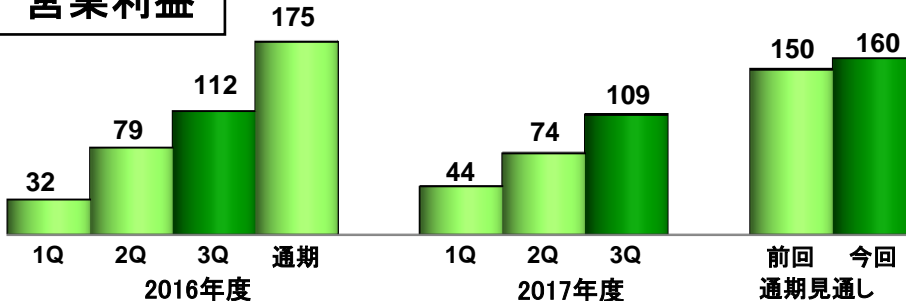
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

車両過給機や熱・表面処理で増加しました。

【売上高】

報告期間統一の影響に加えて、車両過給機の中国向け販売台数が増加したことなどにより、増収となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	3Q累計	通期
2016年度	452	610
2017年度	597	780

【営業利益】

上記の増収はあったものの、販管費の増加などにより、ほぼ横ばいとなりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高は、車両過給機などで増加する見通しです。売上高・営業利益については、車両過給機における販売増加などにより、増収・増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高							
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度				'17年度			
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 (見通し)
運搬機械	319	300	54	116	165	234	32	105	178	280
パーキング	416	500	75	184	296	428	78	171	289	430
熱・表面処理	352	490	78	156	232	323	132	230	326	430
車両過給機	1,746	2,100	474	868	1,293	1,746	691	1,179	1,664	2,100
回転機械	480	460	103	217	337	482	82	188	298	450

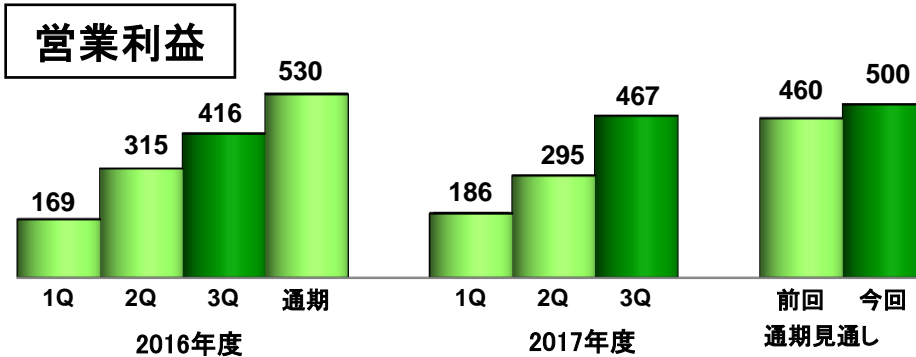
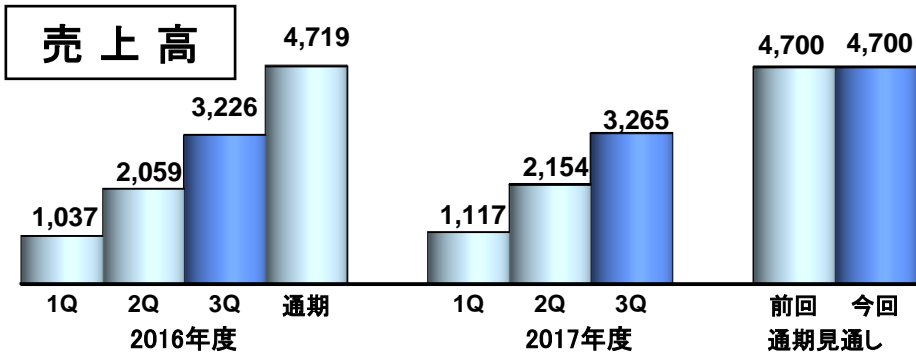
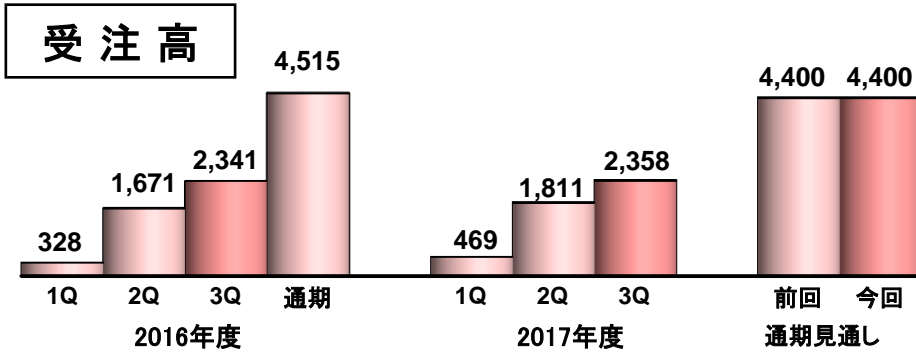
「車両過給機」の詳細は、P32の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2017年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

防衛機器システムで減少したものの、民間向け航空エンジンで増加し、ほぼ横ばいとなりました。

【売上高】

民間向け航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	3Q累計	通期
2016年度	957	1,282
2017年度	983	1,350

【営業利益】

新型のPW1100Gエンジンの販売増加による採算悪化や販管費の増加はあったものの、民間向け航空エンジンのスペアパーツの増加や為替の好転などにより、増益となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高は変更ありません。

営業利益は、民間向け航空エンジンでの採算改善及び為替の好転の反映により、増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高							
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度				'17年度			
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,630	3,100	698	1,352	2,083	2,915	697	1,413	2,166	2,900

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P31の<参考資料>をご覧ください。

< 参考資料 >

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第3四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

コーブポイント天然ガス液化設備



2017年11月現在



ガスタービン駆動コンプレッサー運転

<進捗状況>

2017年12月末現在で、設計、機器の発注、建設はほぼ完了し、試運転実施中。プラントへ原料天然ガス受け入れ。プロジェクト全体の進捗率は98.3%。2018年1月、LNG生産開始。

<主要工程>

- 2013年4月: 契約締結
- 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)
- 2015年3月: 起工式挙行
- 2017年3月: DCS(プラント制御装置)運転開始
- 2017年4~11月: メカニカル・コンプライーション
- 2018年初頭: 商業運転開始

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転及び運転開始

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2017年12月末現在

<進捗状況>

2017年12月末現在、基礎工事継続中。#1ボイラ耐圧部・電気集塵機, #2ボイラ鉄骨・耐圧部を据付中。ボイラ部分の進捗は設計: 約89%, 調達: 約80%, 据付: 約29%, プロジェクト全体: 約68%。

<主要工程>

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 2014年 8月: 契約締結 | 2018年10月: 火入れ(#1) |
| 2017年 1月: 立柱(#1) | 2019年 4月: 火入れ(#2) |
| 2017年 7月: 立柱(#2) | 2019年 6月: 商業運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 商業運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) | |

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

豪州独立系発電事業者向け大型ガスタービン発電設備が完成

IHIは、当社のオーストラリア現地法人と共同で、TransAlta Energy Australia社から2014年に受注した、「LM6000」ガスタービン3基及び周辺機器によって構成される発電所をこのたび完成させました。

地球環境問題への関心が世界的な高まりを見せる中、石油や石炭に比べてCO2排出量が大幅に少ない天然ガスを燃料とするガスタービンを用いた発電設備に注目が集まっています。今回完成した発電設備の中心機器である「LM6000」は、IHIの発電用ガスタービンラインナップの中でも最大の出力と高効率を誇る航空転用型ガスタービンです。

IHIグループは、今後も東南アジア、オーストラリアなどをガスタービン発電設備の注力市場として、積極的に営業活動を展開していく方針です。



<「LM6000」発電設備 >

インド・ルーマニアで橋梁建設工事を連続受注

IHIのグループ会社であるIHIインフラシステムは、ムンバイ都市圏開発庁から、「ムンバイ湾横断道路建設事業 橋梁建設工事パッケージ1」を受注しました。本案件は円借款による政府開発援助案件であり、日本の高い技術・ノウハウを活かせる観点で、日本政府の推進する「質の高いインフラパートナーシップ」に資する案件です。

また同社は、イタリアの建設会社Astaldi社とのJVで、ルーマニア道路インフラ公社(National Company for the Administration of Road Infrastructure)から、ブレイラ橋の建設工事を受注し、1月15日に請負工事契約に調印いたしました。本案件は、IHIグループにとって、同国において初めての受注です。

IHIグループは、他にもベトナムの日越友好橋(ニャットン橋)やトルコのイズミット湾横断橋(オスマン・ガズィー橋)など、多数の大型橋梁建設に携わり、豊富な経験を有しています。今後もより一層海外での橋梁受注活動を推進し、社会インフラの整備を通して各国の発展に貢献していきます。



<ムンバイ湾横断道路橋 完成予想図>

※出典:Mumbai Metropolitan Region Development Authority

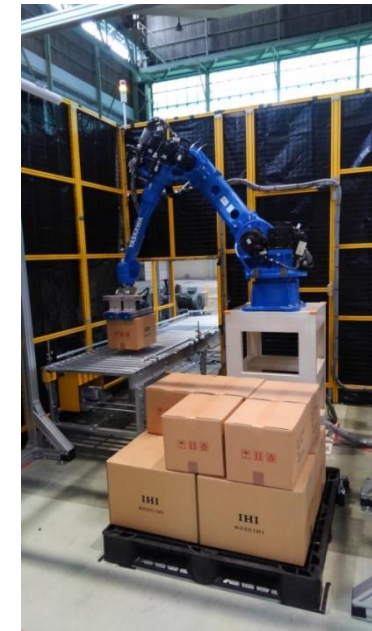
世界初AI(深層学習)搭載の デパレタイズシステムを開発, 販売開始

IHI及びグループ会社のIHI物流産業システムは、物流設備においてパレットに積まれたケースの荷卸し作業を自動で行なうデパレタイズシステム(※)に世界で初めてAI(深層学習)を搭載し、認識能力を大幅に向上した「IHIデパレタイズシステム」を開発、国内での販売を開始しました。

このたび販売を開始した「IHIデパレタイズシステム」は、物流ニーズの変化に対応する柔軟な運用を可能にし、処理能力30%向上を実現しています。

今後もIHIグループが保有する様々なノウハウに基づく制御技術及びロボティクス技術により、物流システムやものづくりの高度化に取り組んでいきます。

※デパレタイズ:パレットに積まれた荷物を下ろす作業のこと。一般的に荷物を積み込むより積み下ろす方が難しく、自動化されづらくなっており、人力で行なわれる現場が多い。



<AI搭載デパレタイズシステム>



(©JAXA)

イプシロンロケット3号機の打ち上げ

IHIのグループ会社であるIHIエアロスペースが機体システムの開発・製造を担当した宇宙航空研究開発機構(JAXA)のイプシロンロケット3号機が1月18日に打ち上げられ、高性能小型レーダ衛星(ASNARO-2)を正常に分離したことが確認されました。

2号機に続く今回の成功で、当社グループが取り組んできたロケットシステム関連の技術開発の成果が確実なものとなり、今後の打ち上げ需要に十分対応できることが実証されたものと捉えています。

IHIグループは、今後もロケットシステム関連の技術開発とその研鑽に励み、日本の宇宙開発事業の発展に尽力してゆく所存です。

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績										見通し		
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度			通期	'17年度			
						1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	通期
売上高	1,436	1,698	2,260	2,670	2,991	698	1,352	2,083	2,915	697	1,413	2,166	2,900

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)												主要搭載機
	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17/3Q	
V2500	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,467	エアバス A319/320/321
GE90	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,594	ボーイング B777
CF34	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,033	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx						118	259	468	751	1,035	1,295	1,491	ボーイング B787/B747-8
PW1100G										16	148	346	エアバス A320Neo
Passport20													9 ボンバルディア社 Global7000/8000
合計	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	16,940	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績													見通し
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度				
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
日 本	331	339	353	375	346	85	180	274	389	101	196	296	380	
ア ジ ア	169	248	298	275	216	66	96	127	158	28	57	87	110	
中 国	143	181	234	243	249	118	205	343	485	215	383	533	670	
北 米	11	13	16	18	24	13	19	25	33	7	19	49	70	
中 南 米	0	0	0	7	34	29	43	50	61	11	28	51	80	
欧 州	437	432	602	756	743	160	322	471	617	327	492	647	790	
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	1,094	1,216	1,507	1,677	1,616	474	868	1,293	1,746	691	1,179	1,664	2,100	

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し		
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度			
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期
賃貸収入	95	92	91	93	101	23	46	70	93	23	46	69	92

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
17年度3Q	69	29	22	17

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

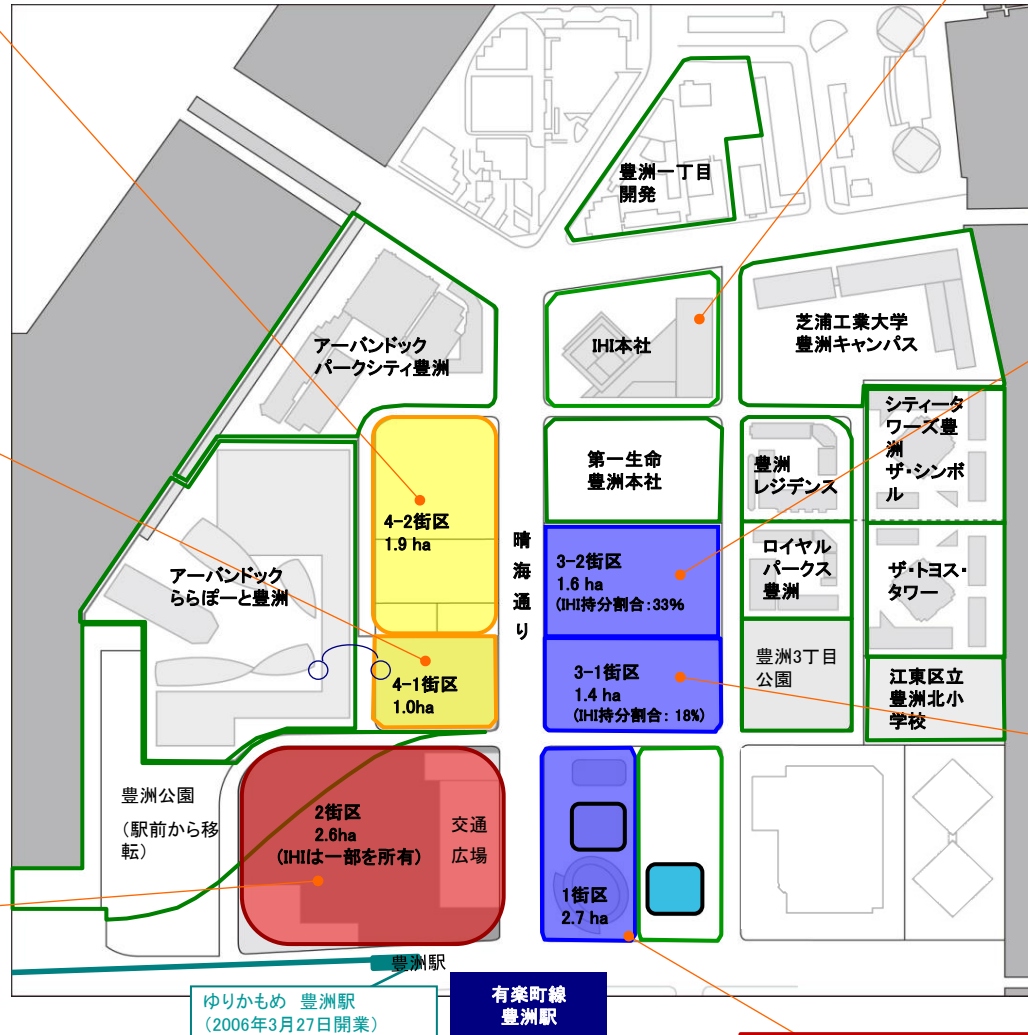
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



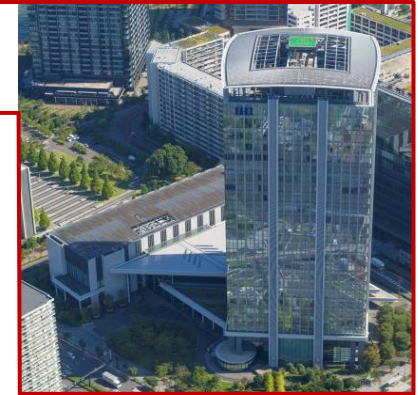
アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定



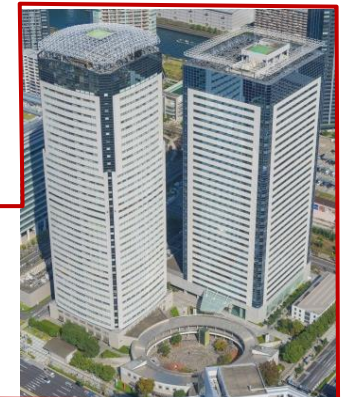
豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工

シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI所有地	約5ha
--------	------

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。